



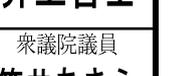
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士

「小規模校の良さがわかった」



小中学校の統廃合を考えるつどい 盛況

市民有志の呼びかけで、小中学校の統廃合を考えるつどい」が7月31日、小矢部市民交流プラザで開かれ、活発な意見交換が行われました。参加者から統廃合は仕方がないか、と思っていたが、今日参加して、考えが変わった、日本の教育制度が世界に比べて遅れていることは初めて知ったと驚きの声がありました。

世界では小規模・少人数が当たり前

「少人数学級・小規模校のよさ」と題し、平均は小学校21・2人（日本27・9人。下右で、中村弘之氏（富山県教育研究所 滑川市適応指導教室指導員、前沖縄市教員委員会学校支援専門員）に図1掲載）で、日本がいずれも世界の平均を大幅に上回っています（2017年）。

中村氏は小規模校・少人数学級が子どもたちの教育、成長にとって良いことが、いろいろな国際機関やアメリカ、日本の調査や研究で既に十分証明されていると紹介しました。「小学校は100人から200人規模で1学年1学級、クラス替えがない」（下左図）、OECD加盟国の1学級あたりの児童・生徒数の調査研究は2面にて紹介します。

学校統廃合で 35人以上が上がる

学校統廃合を進めれば、35人以上が大幅に増えることは、今度の「つどい」呼びかけ人である山崎勇氏がまとめた表（2面掲載）でもあきらかです。石動小と東部小を統合すると35人以上が上がる。蟹谷小と津沢小の統合では0から6学級に、蟹谷小と津沢小の統合でも2から4学級に増えます。

学校現場から視点・提言

少人数学級こそ、いじめ不登校・学力低下は解決できる

小学校の現場からの視点・提言として元教員の谷口恭子氏が報告しました。



NPO法人「大空へ飛べ」の「子育てカフェ」で出された不登校当事者の声は、衝撃的でした。「学校は監獄と同じ、朝から夕方まで黙って座って」、「学校で学ぶことは、協調性だけ」というものでした。

谷口氏は「学校とはほんとうは何をするところなの」と問い、「その子の光るものを見つける、子どものよさをみんなで見つめる、この繰り返しの中で子どもは息を吹き返していく」。

ところが今の学級規模では「どうしてみんなと同じことができないの？」となる。少人数学級にすることで学校にかかわるほとんどの問題いじめ、不登校、学力低下は解決すると強調しました。

バス通学は子どもにも負担

バス通学は今でさえ子どもたちにとってたいへんです。朝7時前からバス停で待つ子、30分ものバス通学に酔って保健室で寝込む子、下校バスでも疲れて最後部座席で寝込んでしまい降りなかった事例もあった。このうえ学校統廃合でもっと長時間バス通学になると子どもがかわいそうと、懸念を紹介しました。

若い人が教師にやりがいをもてる環境を

ほんとうは教師の仕事はやりがいのある仕事のはずだが、若い人が教師になろうとしなくなっている。長時間労働がそのネックになっている。この現状を変えて欲しいと訴えました。

地域に学校は必要

東部小学校教育後援会尾山会長

東部小学校教育後援会の尾山喜次会長は「地域に学校は必要で、桜井市長は複式学級にならない限り東部小学校は存続させると、地元で公言されていた。ぜひ学校を存続させるために皆さんにご協力を」と訴えました。

また、ほかの参加者からは、東部小学校の元校長先生が「東部小学校の規模が一番よかった」と語っておられたとの紹介もありました。

